

会議の要旨（議事録）

会議の名称	平成28年度第2回 鳥栖市文化財保護審議会		
開催日時	平成28年9月23日(金) 午前9時30分	開催場所	鳥栖市役所2階第1会議室
出席者数	委員 7名 事務局 4名	傍聴人数	7人
議題	1. 鳥栖駅舎について		
配布資料	平成28年度第2回 鳥栖市文化財保護審議会資料		
所管課	(課名)生涯学習課		(電話番号)85-3695

1. 教育長あいさつ

2. 議題

(1) 鳥栖駅舎について

建築物調査中間報告 要点

- ・小屋裏をみれば、建築年代だけではなく増改築の履歴なども明らかだが、利用客の安全性確保と施設保全の点から調査できなかった。
- ・歪みも少なく、構造的にもしっかりしている。
- ・南側の二階建て増築部分を除き、軸組構造の改変はほとんどなく原形をとどめている。
- ・上質の材料と高い技術を用いた強固な構造。
- ・小屋裏の部分的な写真には、立派なさすがいでの補強、トラス構造がみられた。
- ・車寄せ柱の基壇や柱頭飾り、駅舎東のホーム側に残る下屋の破風板飾り、両側におもりがついた上げ下げ窓など西洋の洋式建築で統一されており、明治期の洋風建築を知る建物。
- ・下屋の柱や窓が東と西で異なるなど、モジュールに載っていないのは特徴的。
- ・明治後期には、全国に同様の駅舎が建てられたと考えられるが、九州では上熊本駅や直方駅のような同形の駅舎がすでに取り壊されているため、鳥栖駅舎は明治時代建築の貴重な建物である。
- ・当時はこの駅だけが特別質が高いデザインではなかったかもしれないが、現在においては明治の駅舎の典型を知る具体的な資料。

- ・鉄道は、明治の近代化産業に貢献した重要な輸送機関で、鳥栖駅はその象徴。
- ・鳥栖市民にとっては鳥栖の発展の象徴であり、故郷を代表する風景と考えられる。

意見交換

A) 建築文化財としての評価について

- 委員
- ・軸組がほとんど改変されることなくオリジナルな状態でかなり残っている。
 - ・洋風のデザインを取り入れた駅舎で、明治期の洋風建築の典型例を示す建物。
 - ・全体として開業当時の姿を残す駅舎としては規模が大きいもので、九州ではあまり見られない。
 - ・調査報告書をまとめる際には、暖炉の構造や小屋裏の構造など詳細な調査を擁する部分がある。
 - ・駅舎南端の2階建て建物は比較的新しいものだが、増築時期や履歴などについても調査をしてほしい。

I) 歴史遺産としての評価について

- 委員
- ・西洋のデザイン・技術を取り入れつつ日本に本来ある意匠を活かしていることに近代化へ進む国民の気概を感じる。
 - ・鳥栖が鉄道のまちとして発展してきた歴史を示す象徴的な建物。
 - ・郷土誌『栖』に駅舎への思いがつつられており、市民遺産と考えてもよい。
 - ・まちの窓口である駅は、昔の風景を思い出すきっかけとなる。
 - ・駅舎の建設当初は、ハイカラな巨大な建物ができ、鳥栖のランドマークという印象をもち、市民は気分が高揚し、驚きと誇らしさをもったのではないか。
 - ・現在も残る洋風、洋館の建物が市内には少なく、鳥栖市の歴史を語る上で重要。
- 事務局
- ・建築文化財、歴史遺産という観点から意見をいただいた。これを取りまとめて、素案を作り、次回提示したい。

他の駅舎の取扱い事例

<資料により事務局より説明>

- 委員
- ・指定・登録の状況の項目で、指定年・登録年を明らかにすること。
 - ・国指定・登録以外の事業主体と概要の説明を次回お願いしたい。
 - ・予算の項目も追加し、可能な限り情報収集してほしい。
 - ・事例として、全体保存の大社駅、一部建材を使用しイメージ再現された道後温泉駅、現役の駅舎の小城駅を挙げてほしい。
- 事務局
- 活用事例としてより詳細な資料を用意したい。

3. その他

- 委員
- ・鳥栖駅周辺に残る鉄道遺産や、駅に伴う周辺の変遷などについても調査をしてほしい。

(終了)